

刀剣博物館の新築工事予定地で挙行された地鎮祭



去る七月六日、新刀剣博物館予定地(墨田区・両国公会堂跡地)において、公益財団法人日本美術刀剣保存協会(以下、日刀保)による地鎮祭が挙行されました。来賓としてお招きをいただいた当組合の深海信彦理事長に同行し、取材をお許しいただきました。

昨夜来の雨がやみ、さほど暑くもなく、まずまずのお天気に恵まれて午前十一時、神事は始まりました。

日刀保からは小野裕会長・柴原勤専務理事・志塚徳行常務理事・福本富雄常務理事ら役員の方々が出席され、来賓として公益財団法人日本刀文化振興協会から河端照孝特別相談役が出席、また、横総合計画事務所・横文彦代表取締役、戸田建設・今井雅則代表取締役社長ら多くの関係者もお祝いに参加されました。式は降神の儀、祝詞奏上、鍬入の儀と順調に進み、玉串奉奠

新刀剣博物館の地鎮祭を挙行 開館は平成29年9月

では、初めに小野日刀保会長が、次に深海全刀理理事長が、続いて来賓の代表者が次々に神殿に向かい奉納されました。

地鎮祭終了後は、両国第一ホテルに会場を移し、祝賀式典が開催されました。地元の山本亭墨田区長からも祝辞が寄せられ、慶祝ムード高まる式典を後に、深海理事長と私は心地よく帰路に就きました。

私は、地鎮祭の取材に先立ち、日刀保の柴原専務理事にお話を伺いました。

柴原氏は長年宮内庁に奉職されてから、日刀保の専務理事に就任し、活躍されている方です。博物館の移転先としていくつもの候補地を回った中で、第一希望であった旧安田庭園が建設地に決まったときの喜びをお話してくださいました。

交通の便も良く、外国からの訪問者も訪れやすい。世界に向けて、この素晴らしい地で刀剣

文化を広めた
いと考えたそ
うです。若い
愛刀家が増え
てくることに
も期待したい
し、その方々
にぜひとも一
振の刀を持つ
てほしい、と
も話されてい
ました。

今後は、耐震性に優れた建物になるわけですから、より安全で快適な展示が可能で、国

宝・重要文化財級の刀剣もこのような環境の中で皆さまにご覧いただけます。ご期待くださいとの言葉でした。

新博物館は来年の夏ごろに完成して、九月に開館が予定されています。地上三階建て、高さ一六メートル、延べ床面積二六〇〇㎡、敷地面積は約二〇〇〇㎡です。一階はエントランスホールのほか、地域情報コーナー、情報ラウンジ、カフェ、研修室と講堂が設けられ、二階は受付と事務室、会議室、収蔵室などになります。三階が展示室と展示倉庫です。

設計はヒルサイドテラス、京都国立博物館、暮張メッセなどを手がけた世界的な建築家、横文彦氏です。工事は戸田建設が請け負います。

周りを見渡すと、美しい日本庭園に囲まれています。ここは明治維新後、旧備前岡山藩主池田章政侯の邸宅となり、次いで安田善次郎氏の所有となりました。氏の没後の大正十一年、東京市に寄付され、関東大震災、太平洋戦争を経て、東京都から墨田区に移管されたもので、全面的改修を行い復元、旧安田庭園として開放されてきました。庭園は、刀剣博物館完成後も墨田区民の憩いの場として公開されることとなります。

付近を歩いてみると、交差点を渡って目に入るのは両国国技館、裏手には江戸東京博物館が。すごい立地です。私個人としても本当によろしいです。

開館後は、今までの十倍も二十倍ものお客さまが訪れる名所になることでしょう。刀を扱う者として、これ以上の喜びはありません。刀は日本人が誇れる文化財だということを、世界中に発信できることなのです。

文化を広めた
いと考えたそ
うです。若い
愛刀家が増え
てくることに
も期待したい
し、その方々
にぜひとも一
振の刀を持つ
てほしい、と
も話されてい
ました。

今後は、耐震性に優れた建物になるわけですから、より安全で快適な展示が可能で、国

宝・重要文化財級の刀剣もこのような環境の中で皆さまにご覧いただけます。ご期待くださいとの言葉でした。

新博物館は来年の夏ごろに完成して、九月に開館が予定されています。地上三階建て、高さ一六メートル、延べ床面積二六〇〇㎡、敷地面積は約二〇〇〇㎡です。一階はエントランスホールのほか、地域情報コーナー、情報ラウンジ、カフェ、研修室と講堂が設けられ、二階は受付と事務室、会議室、収蔵室などになります。三階が展示室と展示倉庫です。

設計はヒルサイドテラス、京都国立博物館、暮張メッセなどを手がけた世界的な建築家、横文彦氏です。工事は戸田建設が請け負います。

周りを見渡すと、美しい日本庭園に囲まれています。ここは明治維新後、旧備前岡山藩主池田章政侯の邸宅となり、次いで安田善次郎氏の所有となりました。氏の没後の大正十一年、東京市に寄付され、関東大震災、太平洋戦争を経て、東京都から墨田区に移管されたもので、全面的改修を行い復元、旧安田庭園として開放されてきました。庭園は、刀剣博物館完成後も墨田区民の憩いの場として公開されることとなります。

付近を歩いてみると、交差点を渡って目に入るのは両国国技館、裏手には江戸東京博物館が。すごい立地です。私個人としても本当によろしいです。

開館後は、今までの十倍も二十倍ものお客さまが訪れる名所になることでしょう。刀を扱う者として、これ以上の喜びはありません。刀は日本人が誇れる文化財だということを、世界中に発信できることなのです。



新刀剣博物館の完成予想図(合成写真)

NEWS, TOPICS, INFORMATION, OPINION & EDITORIAL



2016.9.15 No.31
 発行人 深海信彦
 発行所 全国刀剣商業協同組合 編集委員会
 〒169-0072 東京都新宿区大久保2-18-10
 新宿スカイプラザ1302
 TEL:03(3205)0601 FAX:03(3205)0089
 http://www.zentosho.com/

第31号編集担当
 赤荻 稔 飯田 慶雄 伊波 賢一 大西 芳生
 大平 将広 木村 隆志 嶋田 伸夫 清水 儀孝
 生野 正 瀬下 明 瀬下 昌彦 玉山 真敏
 土子 民夫 網取 譲一 土肥 富康 服部 暁治
 深海 信彦 松本 義行 賀賀 真吉 持田 具宏

刀剣・書画・骨董

和敬堂

土肥豊久・土肥富康

〒940-0088 新潟県長岡市柏町1-2-16
 TEL 0258-33-8510
 FAX 0258-33-8511

<http://wakeidou.com/>

美術刀剣・刀装小道具商

やしま

齋藤雅稔・隆久・隆洋

刀装小道具通信販売目録「やしま」
 年間10回位発行予定
 購読料10回 2,000円(郵便切手可)

〒202-0022 西東京市柳沢6-8-10
 TEL 042-463-5310
 FAX 042-463-7955

金工・刀身彫刻・修理・諸工作一式

柳匠堂

柳村宗寿

岡山市北区平和町二一八
 TEL 〇八六-二二三-二二一九
 工房 岡山市北区磨屋町七二二
 TEL 〇八六-二二三-二二三九
 FAX 〇八六-二二三-二二三九

刀剣古美術

三峯美術店

町田久雄

埼玉県秩父市野坂町一十六六一二
 西武秩父駅連絡通路町久ビル内
 TEL 〇四九四-二二三-三〇六七
 FAX 〇四九四-二二三-三〇六七

美術刀剣、小道具、武器類の
 売買、加工及び御相談承ります

大阪刀剣会

吉井唯夫

大阪市中央区日本橋二一七一
 TEL 〇六一六六三一-二二二〇
 FAX 〇六一六六四四-五四六四

刀 剣 界

刀剣博物館移転による 諸事業の休止等について

①刀剣博物館展示

平成二十九年三月三十一日まで
って代々木での展示は終了する。
平成二十九年秋に両国・新刀剣博
物館において展示再開の予定。

②審査スケジュール

平成二十九年の審査申請受付
は、刀剣は三月、刀装・刀装具は
四月でいったん休止する。同年十
月の刀装・刀装具審査から受付を
再開する。受付日程は十月二日(月)
から四日(水)までの三日間を予定。
平成二十九年の重要刀剣等審査の
受付は、十月第二週の十日(火)から
十二日(木)までの三日間を予定して
いる。

③定例鑑賞会、日本刀鑑賞マナー 講座、講師派遣、刀剣の貸与

いづれも平成二十九年六月まで
実施し、平成二十九年十一月に再
開する。

④平成二十九年新作名刀展

通常の通り、平成二十九年四月
から六月までの三日間を予定。
六月(月)から八日(水)までの三日間、申請数の制限
を予定している。具体的な制限方
法については、決まり次第お知らせ
する。

⑤「刀剣美術」誌の発行

通常通り発行する。
平成二十九年三月まで利用でき
る。四月より休室。

⑥刀剣研磨・外装技術研修会

通常より早く、平成二十九年七
月未から八月初めに開催する。
⑦刀職技能訓練講習会
例年通り開催する。
⑧刀工技術実地研修会
例年通り開催する。
⑨村下養成講座
例年通り開催する。
⑩伝位審議会
平成二十九年は九月の審議会は
中止する。

⑪「刀剣美術」誌の発行

通常通り発行する。
平成二十九年三月まで利用でき
る。四月より休室。

⑫資料室の利用

平成二十九年三月まで利用でき
る。四月より休室。

日刀保会長に酒井忠久氏が就任



酒井会長

公益財団法人日本美術刀剣保存
協会ではこのほど、平成二十四年
度から会長を務めておられた小野
裕氏に代わって酒井忠久氏が会長
理事に就任したと発表した。
酒井氏は旧在任藩主酒井家の第
十八代当主。昭和二十一年生まれ
の七十歳。現在、公益財団法人致

警察庁を訪問し、組合活動を報告

七月十四日、今期の執行部役員
の挨拶と一年の組合活動の報告を
兼ねて、警察庁へ清水専務理事、
服部常務理事と筆者が伺いました。
生活安全局長生活安全企画課の仲山
博隆課長補佐、牧野孝広警部、谷
口直男警部にお目にかかりました。
組合活動の報告をしますと、昨
今の刀剣女子ブームを新聞等で目
にして、実際にはどうなのか、ま
た「大刀剣市」の最近の傾向など
についても質問を受けました。

大刀剣市の来場する男女の比率
について、ブームの影響で女性が多
くなっていることや、会場
に警察庁監修の「やさしい刀」を
置き、銃刀法の重要性を認識して
もらえるよう取り組んでいること
などを説明しました。

刀剣の知識に乏しく、価値のあ
まりわからない者までが、一定の
買い取りの条件を満たし、インタ
ーネット上でやみくもな営業をし
ている不安な現状に対処するた
め、現在組合が計画している刀剣
評価鑑定士の認定事業についても
報告しました。

また製作途中ではありますが、
問題集を、覧いただきました。古
物営業法関連の問題なども含まれ
ているために、認定制度にもご期
待を持っていただけたのではない
かと思えます。

この度、警察庁で古物関連の業
務を担当されているお三方とお話
しさせていただきましたことは、誠に
有意義でした。今後も本事業の進
展に合わせ、その都度ご相談申し
上げ、ご協力をお願いしたいと思います。
(嶋田伸夫)

道博物館館長のほか、同本間美術
館理事・同山形美術館評議員・同
在任育英会評議員・学校法人羽黒
学園理事・松ヶ岡開塾場館長・在
内銀行取締役などの役職に就かれ
ている。

また、去る六月、任期満了に伴
う評議員の選任が行われ、二十名
が就任した。任期は平成三十二年
度の定時評議員会までとなる。

来る十一月十八〜二十日、東京美
術倶楽部で開催する「大刀剣市」が
「報知新聞」に写真付きで掲載され
最も早い事前告知となりました。
きっかけは、プロレスラーで初
代タイガーマスクとして知られる
佐山聡さんからの呼びかけ。東日
本大震災で多大な被害のあった東
北の復興支援のために、共に何か
できないでしょうかと、組合に相
談があったのです。

佐山さんは、初代タイガーマス
ク基金を設立し、恵まれない子供
たちの支援や慈善イベントを開催
するなど、これまでに多くの活動
実績を積んでおられる方です。
窓口を深海理事長にお願いし、
協議していただいた結果、復興支
援のチャリティーゴルフコンペが
開催される運びとなりました。六
月八日、静岡・川奈ゴルフ富士
コースに佐山さんほか十五
名の組合員有志が集いまし
た。

コンペの景品は、宮城県
石巻市の「木の屋石巻水
産」と「本田水産」から購
入した缶詰。
震災直後、また支援物資



初代タイガーマスクの佐山聡さん

第29回「大刀剣市」は11月18〜20日に開催 出店者事前説明会は10月23日

全国刀剣商業協同組合が主催す
る「大刀剣市2016」は秋深ま
る十一月十八日(金)〜二十日(日)の三
日間、東京・新橋の東京美術倶楽
部において開催します。例年通り、
産経新聞社およびフジサンケイ
ビジネスアイ両社にご後援いただ
いており、心強い限りです。
イベント企画として、三階重文

室では、今年と来年のNHK大河
ドラマにちなんだ「真田丸と井伊
直虎の時代の刀」展を開催します。
また四階会場では、恒例の「我
が家のお宝鑑定会」を連日午後
に開催します。受付は随時とし、当
組合の理事がお客さまの要望に応
え、納得のいくよう対応します。
同じく四階では全日本刀匠会の

協力を得て「現代刀匠による銘切
り実演」を行います。
なお、カタログ制作は実行委員
会の担当チームによって鋭意進め
られており、十月初旬には皆さま
のお手元にお届けする予定です。
今回も昨年同様、十月二十三日
の組合交換会終了後に事前説明会
を開催します。出店関係者に全日
本刀匠会の担当者も交え、少しの
事故やトラブルなどないよう、準
備万端を期したいと思います。
(清水儀孝)

出店者一覧

氏名	屋号	氏名	屋号
朝倉 忠史	株永和堂	新堀 孝道	新堀美術刀剣
芦澤 一幸	静心堂 芦澤	杉田 侑司	刀剣 杉田
安東 孝恭	株安東貿易	鈴木 雅一	平成名刀会
飯田 慶久	飯田高遠堂	瀬下 昌彦	銀座丸英
飯塚 賢路	刀剣・古美術飯塚	高島 吉童	刀剣 高吉
五十嵐啓司	南濃州堂	高橋 歳夫	真玄堂
稲留 修一	株舟山堂	田澤 二郎	株日宝
伊波 賢一	株日本刀剣	田名網 守	田名網美術刀剣
今津 敦生	儀平屋	田中 勝憲	株城南堂古美術店
大西 康一	大和美術刀剣	玉山 真敏	玉山名史刀
大西 孝男	大西美術刀剣	網取 謙一	福隆美術工芸
大西 敏之	刀剣 武蔵野	土肥 豊久	株和敬堂
大平 岳子	勝武堂	中永 潔	南聚楽
小島 昇	秀美堂	中川 正則	刀剣美術 中川
金丸 一三	株金丸刀剣店	簾谷 大輔	日本刀 簾谷
川島 貴敏	銀座 泰文堂	簾谷 三男	刀剣 はたや
木村由利子	株永楽堂	服部 暁治	服部美術店
木村 義治	木村美術刀剣店	ヒューズロバート	慶長堂
草分 一雄	古美術 草分堂	平子 誠之	イー・ソード
熊倉 勇	刀剣 大東美術	深津 尚樹	尚佳洞
栗原 春吉	南栗原金庫製作所	深海 信彦	株銀座長州屋
黒川 精吉	霜剣堂・黒川	福岡 勇仁	株三明貿易 刀剣徳川
黒川 宏明	筑前刀剣堂	藤田 一男	神田 藤古堂
小暮 昇一	江州屋刀剣店	松川浩一郎	古美術 成蹊堂
齋藤 恒	銀座 盛光堂	松原 正勝	恵那秋水会
齋藤 雅稔	やしま	松本 義行	株美術刀剣 松本
坂田 哲之	刀剣 坂田	三浦 優子	優古堂
佐孝 宗則	株紀の国屋	村上 昌弘	刀剣古美術 京都むらかみ
佐藤 均	刀剣 佐藤「倉敷刀剣美術館」	村上和比子	株コレクション情報
猿田 慎男	株むさし屋	冥賀 吉也	つるぎの屋
柴田 和男	株日本刀 柴田	持田 具宏	もちだ美術
柴田 光隆	株刀剣柴田	森野 幸男	刀剣ギャラリー樹林
嶋田 伸夫	古美術刀剣 山城	山本 一郎	刀友会
清水 敏行	大宮 清水商会	横山 忠司	札幌 横山美術
清水 儀孝	株晴雅堂 清水	吉井 唯夫	大阪刀剣会 吉井
生野 正	銀座誠友堂		

(五十音順)

「大刀剣市」を事前告知 復興支援ゴルフコンペとともに

が十分に行き届かない中、両社で
は工場の瓦礫を片付けて大量の缶
詰を発掘し、被害を受けられた
方々に差し上げたそうです。この
缶詰はその後「発掘缶」と名付けら
れ、全国各地の復興支援会場で販
売され復興に役立ってきました。
今回、その缶詰をできるだけ多く
求め、使わせていただきました。
この度の復興支援ゴルフコンペ
は、ささやかではありましたが、
ちょっとした工夫で、どなたにも
支援はできることがアピールでき
たのではないかと思います。併せ
て、当組合のメインイベントであ
る大刀剣市を広く知っていただき
良い機会となりました。
復興はいまだ道半ばですが、石
巻市の港町が以前の賑わいを取り
戻すことを組合員一同、切に願っ
ています。
(嶋田伸夫)



風向計

其之二十

深海 信彦

刀剣等を扱う業者は古物商許可証を取得していればそれでよいのであって、そのほか何が必要であるのか、という考えの人は多い。多いというより、今まではすべて業者がそうであったし、特段不便を感じず、信用上も取引上も何も問題はなく、何十年も資格などとは関係なしに商売を続けてこられた。業界ではそれが当たり前であり、個々の事業者の個人的信用はどのような資格にも勝り、刀剣等の評価鑑定に長け、古物営業法・銃刀法もそれなりに理解していれば、何の不自由も感じなかったはずである。

しかし、資格社会が進化して何業にも資格制度が制定されるようになると、むしろ経験と信用のみが頼りの事業者・業界は少数派となってしまう。現代社会においては何十年間の実績と信用を誇る業者と、経験と知識と実績は浅いが民間の立派な肩書を書き物にしてある業者は、少なくともネット上では見分けがつかなくなりつつあり、やがてネット以外の通常の取引においてもその傾向は顕著になっていくことが想定される。

つまり、個々の実績と信用度は取引してみないとわからないが、誰にでも設立可能で安易に取得可能な民間資格でも、公的資格に類した名称であれば、その肩書だけで多くの信用を得ることが可能な社会になってきたということである。業界が刀剣等を売買する資格制度などを等閑にしている間に、資格社会の到来に敏感な業者は、肩書を背景に実績を伸ばしているのが現状と言える。それは決して悪いことではなく、頭の良い人が事業に成功しているのは古今東西

何の不思議もない事実である。そこで、組合も時代の求める制度を作ったに乗り遅れることなく、将来に備えようというのが「刀剣評価鑑定士」の資格認定事業の狙いでもある。

この事業の効用は他にも多くの波及効果を生じることであろうが、現在は大きな輪郭造りの段階で、やがて素案がまとまり、具体化していくにつれ、多くの内外の意見を聞いて誰もが納得できる制度にしていくことが肝要である。

事を始めるに当たっては、必ずしも全員の理解と協力を得られるとは限らない。あらゆる企業・団体・機関も、新たな事業展開については賛否両論もある。そして、何もいない人ほど非難の声を上げるのは世の常である。事業が実行され、その成功の果実を得るのは賛否すべての組合員であるが、企画・立案・実行する人は常に一名乃至数名である。しかもその努力が高い評価を得ることも、顕彰されることもないのが組合である。それにもかかわらず、その時々において、全力を挙げて組合のために尽力した一握りの人々の奉仕の連鎖によって今日の組合があることは、紛れもない事実である。そもそも、一人がこの組合の設立を呼びかけた当時四十七歳の故荒勢英一氏(のち理事長)に最初から賛同する人はきわめて少なく、荒勢氏が組合の拠点となる刀剣会館を建てようと黒川精吉氏(のち理事)、城所稔氏(のち専務理事)の助力を得て、個人の主催としては当時全国初の現金立替払いの交換会を始めた時も、なかなか業界の総意は得られなかった。組合設立前の実績作りにと朝倉

万幸氏(のち理事長)らに呼びかけ、故柴田光男氏(のち理事長)を首座に頂いての刀剣等の審査機関「鑑定倶楽部」も同様であった。しかし、荒勢氏の信念と努力が実って組合設立直前には交換会の手数料収入も溜まり、故山崎昭氏(のち専務理事)らの協力を得て、現在の組合事務所のマンションの購入が実現した。

設立後は、故齋藤光興氏(のち副理事長)が中心となって現在の「大刀剣市」の前身となる「刀剣オークション」「刀剣フェスティバル」が大手町のサンケイ会館で開催された。組合員数は現在より二割程度多かったにもかかわらず出店者は二十数店舗と少なく、担当者は大いに苦労したことであった。当時これに尽くした人は数名で、無勝手手弁当で、ただ奉仕のために自身の時間を割くのみであった。

今日まで連続と発行されている『全力商』誌も飯田一雄氏(のち理事長)が編集主幹で創刊されたものであり、平成三年に初版され警察庁編集協力を受けて版を重ねている『やさしいかな』や、平成八年に国家公安委員長より承認され官報にも告示された組合員証と組合員プレートも、報われることのない一部の人の尽力の賜物である。また今日では、ごく当たり前のように東京美術倶楽部で組合の月例交換会が行われ、年に一度「大

刀剣市」が開催されているが、当時の組合にとって美術業界の殿堂である美術倶楽部を利用できることは夢のことであり、これが現実のものとなったのは偏に高橋歳夫氏(のち専務理事)の尽力に負うものである。高橋氏はまた、購入した組合事務所の資産価値がいわゆるバブルの崩壊によって激減し、当然ながら金融機関には多額の支払債務が残っていた当時、交換会運営の先頭に立ち、遂には組合の信用を失

うことなくその手数料収入をもって債務の全額返済にこぎつけた立役者である。このように、組合は三十年間にわたってその時々の実力者の奉仕の精神によって運営が継続されているが、振り返ってみて、ためになることは残り、必要のないものは自然に淘汰されている。どのような宗教も最初は異端であり、法も元は無法である。地球は動いているとの説はまさに驚天動地であり、何事においても創設、始動には大変な辛苦とエネルギーが必要である。

組合が、現代の社会において職業として他業種と互角に渡り合うためには、社会の求める制度を採り入れなければならない。かつて誰にも褒められることなく感謝されることもなく、ひたすら組合のために努力を重ねた先輩方の苦労に比べれば、この程度の事業の実現を困難に思っているのは申し訳ない。組合は当初より奉仕の連鎖で継続しており、それが途絶えれば停滞し、さらに消滅してしまうことになる。

先人が整えてくれた環境のもと、この仕事を天職とするならば、何も功績を語らない多くの方々を見習ってこの資格認定事業を成功させるのは、現在の組合員の務めである。後に至って誰にも感謝されなくてもいいではないか。自分が生業とするこの業界の社会的地位が向上し、「刀屋」が今以上に社会に認知されるならば。

古銭 切手・刀剣 売買 評価鑑定 (株)城南堂古美術店 代表 田中 勝憲 〒153-10051 東京都目黒区上目黒四-3-11 TEL 03-3771-0676 FAX 03-3771-0677

資格いろいろ

刀剣評価鑑定士資格認定制度に寄せて

本紙には最近、刀剣評価鑑定士の資格認定制度がしばしば取り上げられています。刀剣商の中には既に刀とは別の分野で「〇〇士」の資格を持っている方もいるでしょうが、大多数の組合員にとっては人生初めての「士」の公的資格取得の機会が訪れることとなります。検定試験についても、どのようなものなのか、組合員にとって大いに気になるのでしよう。

公的資格試験と言えば、司法試験が真っ先に浮かび、次が公認会計士試験です。難関を突破すれば晴れて「士」が名乗れるわけです。小生若かりしころ、右の資格試験よりはるかにやさしいと思いついて、不動産鑑定士なる資格を取得して順風満帆にいくことを考え、就職の先生を訪ねたところ、「考えが甘い」と一蹴された苦い記憶があります。

一時期、新聞の折込広告などで資格取得のための通信講座やテキストの購入が盛んに勧められたことがありました。はっきり思い出せませんが、定番の英語や漢字検定のほか、栄養士・イラスト・宅地建物取引・防火管理などだったでしょう。詐欺まがいの広告もあり、資格取得を熱望する者が多いのにつけてこんで金銭の搾取を狙ったようです。資格取得願望は若い年代層に多いので、巧妙な詐欺の手口を見抜けず、被害に遭った方もいたようです。

自分のことを棚に上げて言わせてもらえば、若者よ、「士」でなく「志」を目指せ、ですね。そして、近年の超高齢化社会になって、申し子のように現れたのが介護福祉士、それに遺品整理士です。片や公的資格、一方は民間

資格の違いがありますが。もちろん当組合の刀剣評価鑑定士は公的資格であり、中堅刀剣商だけでなく、これからの若い刀剣商にこの資格取得は必須です。さて、資格検定試験問題はどのような内容なのか。一般社会に出てから、おおよそ試験なるもの縁のない人々が対象なので、そこはいろいろ配慮したものになるようです。運転免許試験が法令・学科・実技とあるように、刀剣評価鑑定士の問題も、

①法令(古物営業法・銃砲刀剣類所持等取締法などの理解度)
②学科(刀剣・刀装具・甲冑などの知識・鑑識力)
③実技(鍛刀・研磨・諸工作の知識・理解度を問うのみで、実地試験はなし)
の三部門になります。現在は各委員が担当部門の設問例を提出し、委員会が設問形式の選定、問題例の精査、難易度の判断などを進めています。これらがほぼまとまった段階で監督官庁や関係団体に提出し、助言と監修を仰ぐ予定です。受検用の参考書や問題集も発行していきます。ふと気がつく、自身の担当した法令設問集の作成に携わることによって、結果として、古物営業法などの理解を深めることにもなっています。個人的には、一番興味を湧くのは③の設問です。どんな問題が出てくるか、想像できないからです。法令や条例も逐次改正があるように、設問の内容にも改定が必要になります。毎年、新しいメンバーが委員会に加わることで、新しいアイデアが注入され、ますます充実していくことでしょう。(服部暁治)

刀剣・小道具・甲冑武具
目白 飯田高遠堂
代表取締役 飯田慶久
〒161-0033 東京都新宿区下落合3-17-33
TEL 03-3951-3312 FAX 03-3951-3615
http://www.iidakoendo.com

(株)美術刀剣松本
松本 富夫 義行
〒278-0043 千葉県野田市清水199-1
TEL 04-7122-1122 FAX 04-7122-1950
www.touken-matsumoto.jp

美術日本刀・鐔・小道具・甲冑
日本の伝統文化を彩る JAPAN SWORD CO., LTD.
(株)日本刀剣 伊波賢一 Ken-ichi Inami
〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-8-1
TEL 03-3434-4321 FAX 03-3434-4324

銀座 泰文堂
〒104-0061 東京都中央区銀座4-3-11
松崎煎餅ビル4階
(株)銀座泰文堂 代表 川島貴敏
TEL 03-3563-2551 FAX 03-3563-2553
フリーダイヤル 0120-402037
http://www.taibundo.com

刀剣 高吉
古名刀から現代刀、御刀のことならお任せください!
連絡先 090-8845-2222
代表者 高島吉童
東京都北区滝野川7-16-6
TEL 03-5394-1118 FAX 03-5394-1116
www.premi.co.jp

刀剣業界の情報紙である本紙では、記事を募集しています。ニュースや催事情報、イベント・レポート、ブック・レビュー、随筆・意見・感想など、何でも結構です。写真も添えてください。組合員・賛助会員以外の方も歓迎です。ただし、採否は編集委員会に諮り、紙面の関係で編集させていただくことがあります。



健脚商売⑧

埼玉県所沢市 編

今日の俺の行き先は埼玉県所沢市。稲城市立病院前でいつものサイクリング仲間たちと別れ、北上。東京都を横断する形で所沢の航空公園へ。

以前「コレクター紹介」に出ていただいた調所一郎氏が顧問を務

める、他流派が裸足で逃げ出すという天を突く構えの葉丸自顕流頭彰会の皆さんの公園での練習を訪ねる。氏を訪ねたあの日、葉を落とした櫻の長い影法師、枯れた芝と美しかった公園の風景は殺人的な日差し、湿気を帯びた熱風とウンザリするものに一転したにもかかわらず、剣士たちはそれがさらに厳しくなる午後二時に集まっていた。



和田博温総師範(右)と佐藤重治師範代(左)に囲まれて

佐藤重治師範代に俺から外野ながら提案させてもらったのは、日曜日の一番おいしい時間を家族と過ごせるよう、夏だけでも朝に練習り上げてはどうかということ、月曜日に疲れを残さないためのアミノ酸飲料。今回目に付いたのは

は、十二歳の少年剣士の参加だ。母親の温かいまなざしの中で木刀を振っていた。その少年に「サボると必ずそのツケは自分に回ってくるぞ」と熱い言葉を送る先輩、丁寧に型を解説する佐藤師範代、そしてそれらすべてを無言で見守り、ゆっくりと範を示し、皆に確認させている和田博温総師範という光景だ。

総師範の名前をローマ字で書く「WADA」。リオ五輪を前に、ロシア選手団とその組織的ドーピングに立ち上がった競技界の倫理の砦と同じになる。

師範の名前が名前だけに、剣士たちと薬物は接点があるはずがないが、俺の好きな自転車ロードレース界はドーピングが蔓延している。バルナール・イノー選手のツール・ド・フランス四回総合優勝、グレック・レモン選手のツール・ド・フランス三連覇、俺は彼らを神々の領域の選手たちと思っているが、二〇〇〇年代にツール七連覇の怪物が出てきた。

そのランス・アームストロング選手の驚異の成績は、実は組織ぐるみのドーピングがもたらしたものである。すべてのタイトルと五輪のメダルの剽奪、スポンサーの撤退と裁判、すべての自転車競技者とファンに与えたダメージは計り知れない。

刀剣業界にドーピングは無縁だろうか。もし、人脈・接待・リベロト・圧力で指定書の取得を試みたり、カテゴリー上げを試み商売につなげようとしたら、それは間違いなくドーピング。検査も罰則もないだけに、商人の良心だけが問われる現状だ。

俺だったら少年剣士にこう伝える。「不正は自分にツケが回ってくるどころか、自分の良心を苦しめ、周りも巻き込む」と。

折しも今日は七月二十四日、第百三回ツール・ド・フランス最終日。銀輪の二団がコンコルド広場に凱旋してくる。しかし、昨日はミュンヘンでテロ。無事で終わってくれることを祈るばかりだ。

ちなみに、俺の勧めたAINOMOTOKYANのアミノバイタルは、ドーピングではない。(網取譲二)

趣味とまでは言えないかもしれないが、昔からカメラ撮影が好きです。小学校高学年のころ、父が旅行用を持っていた一眼レフカメラのメカニカルさに魅了され、フィルムを入れずに、マニュアルを見ながら、ここを回せば、この数値を上げると、など想像しながら空シャッターを押していました。

風景写真を撮るのが好きになり、旅行に行く度に重たい一眼レフを首からぶら下げ、相当量のフィルムも余らすことなくシャッターを押し続け、帰ってきたらまたで、写真の整理に追われていました。

さて、今回、十一月に開かれる「大刀剣市」の図録用の作品の撮影が、出店者自身による撮影場所への予約と持ち込みが変わりました。個人的に撮ったデータでもよいということ、なじみのカメラスタジオに連絡すると、何と先生がやめられており、撮影ができな

いと言われてしまいました。東京に予約しようにも、撮影予定の作品自体が生きて出てきたもので、研ぎもギリギリ間に合うかどうかという最悪の状態。

ホームページで、皆さんがご自身できれいに刀身を撮っているのを見て、思い出し、一度真剣に撮ってみるか挑戦しました。

スタジオの撮影現場を思い出しながら、まず黒バック紙を引き、刀剣のセッティングを済ませ、さて次は何をしたらいいのやら。

ご存じの通り、刀の撮影は難しい。刀身自体が鏡のごとく反射するし、何から何まで映り込みます。しかし、今は撮ったらすぐにパソコンで、しかも超アップで確認ができる、デジタルという技術が便利に進んでいるのを過信しながら進めました。

が、撮影するにも三脚以外の機材が何も無い状態で、光源はカメラに付いているフラッシュのみ。これでは一番見てほしい刀身に反射して、素人写真になってしまいます。仕方なく店にあるスポットライトをかき集め、品物を包む薄用紙をフィルターの代わりにしながら、ここでもない、この位置なら大丈夫と何度もファイナラーをのぞきながら動かし、横にあった鏡の櫃に固定したり、適当な板にコピー用紙を貼り付けてレフ板に代用したりと、狭い店の三階で悪戦苦闘です。

取りあえずセット完了して、試し撮りをすると、刃文は出ていない、切先とナカゴが暗い、刀身の地に自分の頭が、ついでに天井のクーラーまで映り込んで、まあ出来の悪い写真でボツの一枚に。気を取り直し、調整しては試し撮りの繰り返しで、少しは見られるものができてきました。

さて、本番です。光量不足で映りにシャープさがなかったですが、刀身と拵を二作品分撮影し終えました。送ったデータが、「これでは使いものにならないですよ。の連絡もないので、少し安心です。いや、ちょっと待てよ、これらが本番でした。「大刀剣市」の図録に載るんだって。

次回撮影するときは機材を揃え、もっと刀の魅力である美しさ、シャープさを出せるように努力しますので、今回の図録は少し甘い目で見ていただけると幸いです。



カメラ小僧?

吉井 唯夫 (大阪刀剣会)

了して、試し撮りをすると、刃文は出ていない、切先とナカゴが暗い、刀身の地に自分の頭が、ついでに天井のクーラーまで映り込んで、まあ出来の悪い写真でボツの一枚に。気を取り直し、調整しては試し撮りの繰り返しで、少しは見られるものができてきました。

来たれ! 「刀剣男子」

伊波 賢一

『全刀商誌』発行も25回がたち、時の速さに驚く。『刀剣界』発行、資格検定に関わる新事業への取り組みなど、時代に沿った未来への足場を築き成長する姿に敬意を抱き、及ばずながら共に歩みたい。

さて、現体制になった平成20年代初期は、長きに渡りデフレ経済に苦しんでいた日本に少し明るさが見え始めながら、未曾有の震災被害が再び日本を襲った頃。バブル崩壊後約20年間、刀剣ほか各種美術品、不動産の価値観が変わる大きな爪痕を残した。

少子高齢化も謳われる中、日本の国民総生産=GDPは先進国中唯一上昇がなく、愛刀家団体も会員数は減少。その影響を感じ刀剣需要にも危機感があった。

しかし少子高齢化ゆえ、愛刀家が減る認識は誤りである。「失われた20年」と言われた最中も、日本の人口は、太古より2010年の約1億2,000万人まで、1945年の終戦時以外増え続けており、人口減と愛刀家減は結びつかない。デフレと言われる単価減が、人口微増でもGDPを上げられなかったか? 追及は他の機会にしたい。なお人口統計は、為替レートや市況相場、経済指標等の研究が進んでも予想が外れることが多い中、その予想推移に狂いはないそうだ。では何が減少感を生んだか。たぶん人口が増えていたのに愛刀家が育たなかった、もしくは離れていったのだから。この先はどうなるのだろうか?

残念ながら日本国は人口ピークを過ぎたようだ。今までの増加カーブとほぼ同じ角度で減少していき、2050年には約9,700万人を予想している。

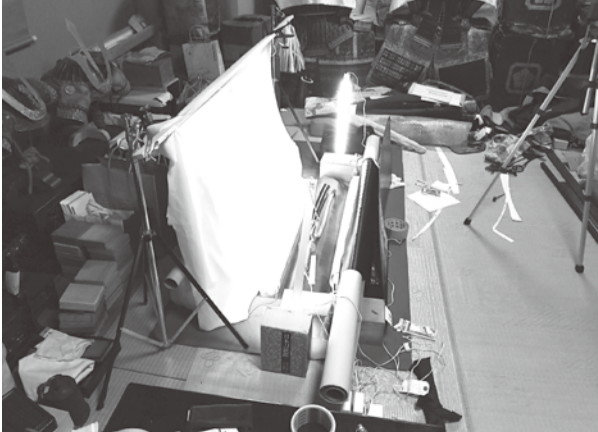
一方で近年、商売に手応えを感じている方もいると思う。外国人による日本文化への根強い憧れ、時代劇人気の復権、ネット取引、そして切り口は違うかもしれないが、刀剣文化がアニメやゲームから形を変え、若者、特に女性の心に響いている。アニメは地道な継続が実を結び、ゲームは博物館展示計画を動かした。刀剣に憧れる家族の良き理解者となるよう切望し、力強い「刀剣男子」の増殖を熱望する。

地球規模で、統計はないが愛刀家人口は増えているのではないだろうか。継続は力なり。地道ながら広い視野で、業界の地位向上に努めなくてはと思う。

組合こよみ

(平成28年7~8月)

- 7月1日 銀座刀剣倶楽部会場で『刀剣界』第30号編集委員会を開催(再校)。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・服部常務理事・赤荻理事・嶋田理事・生野理事・瀬下理事・網取理事・松本理事・持田理事・木村監事・木村隆志氏・土子氏
- 1日 銀座刀剣倶楽部会場で「大刀剣市」実行委員会を開催。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・服部常務理事・赤荻理事・嶋田理事・生野理事・瀬下理事・網取理事・松本理事・持田理事・木村監事・木村氏・土子氏
- 5日 「大刀剣市」出店者への案内発送
- 6日 新刀剣博物館新築工事地鎮祭に深海理事長と生野理事が出席
- 8日・11日 組合事務所にて「大刀剣市」カタログ用写真撮影
- 14日 清水専務理事・服部常務理事・嶋田理事が警察庁生活安全企画課を訪ね、中山警視・牧野警部・谷口警部と面談
- 17日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加37名、出来高10,943,500円
- 17日 東京美術倶楽部にて理事懇談会を開催し、「大刀剣市」について協議。深海理事長・猿田副理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・嶋田理事・生野理事・瀬下理事・網取理事・土肥理事・吉井理事
- 17日 東京美術倶楽部にて『刀剣界』第31号編集委員会を開催(企画)。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・生野理事・瀬下理事・土肥富康氏・玉山真敏氏・土子氏
- 21日・22日・28日・29日 組合事務所にて「大刀剣市」カタログ用写真撮影
- 8月8日 清水専務理事と生野理事が公益財団法人日本美術刀剣保存協会を訪ね、酒井忠久新会長に挨拶
- 9日 組合事務所にて「大刀剣市」カタログ編集会議を開催(掲載順・ページ取り)。出席者、冥賀副理事長・服部常務理事・生野理事・持田理事・土子氏・同美印刷2名
- 23日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加38名、出来高8,071,500円
- 23日 東京美術倶楽部にて『刀剣界』第31号編集委員会を開催(初校)。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・嶋田理事・生野理事・瀬下理事・網取理事・松本理事・持田理事・大平将広氏・土肥氏・土子氏。終了後、慰労会を開催



悪戦苦闘の跡

『刀剣界』は隔月で発行しています。現在、キャンペーン中につき、ご希望の方に1年間無料でお送りしています。組合員・賛助会員以外の方で継続購読を希望される方は、お名前・送付先・電話・メールアドレス(あれば)を書面でお知らせください。また、お知り合いで刀剣に興味のある方がいましたら、教えてあげてください。(事務局)

ふるさと自慢 第16回 ●信州上田 ヒーローたちが幸せにしてくれた 大西 芳生



少年時代の夢と勇気が詰まっている上田城

上田城内の真田井戸は、裏手の太朗山まで続く抜け道であると祖父に教えられ、十勇士たちがこの抜け道を使って活躍する場面を想像して心を躍らせていた。

NHKの大河ドラマ「真田丸」は、おむね好評で視聴率もなかなか良いらしい。しかし、なぜかわが家ではあまり評判が良くない。三谷幸喜の脚本に堺雅人、大泉洋、さらに草刈正雄と来れば、いやが上にも期待が膨らむのだが、三谷色を出せば出すほどそれを邪魔に感じてしまう。しかし、その演出が、今まで大河ドラマを敬遠していた新しい視聴者を掘り起しているのであれば、むげに否定もできない。

鎌倉時代に入ると北条氏が居を構え、鎌倉の仏教文化を花咲かせた。日本で唯一の国宝八角三重塔をはじめ、今でも多くの歴史的建造物が残されている。上田の名が全国にとどろいたのは戦国時代であり、真田氏の武勇によるものであった。上田城を築いた真田昌幸は、圧倒的戦力差のある徳川軍を二度も退け、子の真田幸村も、大坂夏の陣で徳川家康の本陣に迫っており、家康を最も恐れさせた知将として知られる。私は昭和四十年代に上田に生まれ、高校までを上田の城下町で過ごした。小学生の低学年ごろに放送されたNHKの人形劇「真田十勇士」は、上田の子供たちの心に火を付けた。真田十勇士とは真田幸村を助けたとされる十人の精鋭家臣団であり、基本的には架空のキャラクターである。

代表 紀伊 国屋 松浦 孝子 刀剣・宝飾品・高級腕時計・ダイヤ

ゲーム機や携帯電話はもうほとんど買ってもらえなかった時代、学校に行けば友達と、前日に放映された真田十勇士の話に夢中になった。一番人気は、言うまでもなく猿飛佐助である。娯楽の少ない時代において、佐助は真田幸村以上にヒーローとして少年たちの心をつかんでいたのだから。

高校生のときには、池波正太郎原作のNHK大河ドラマ「真田太平記」が放映された。真田幸村の役には草刈正雄、兄の真田信幸には渡瀬恒彦、そして父真田昌幸の役は丹波哲郎であった。紺野美紗子演じる稲姫の美しさは鮮烈であり、この個性の強い四人のヒーロー像は、高校生の中に強く刻まれた。永遠のヒーローである佐助も、作中の重要な役として登場する。この時代の上田っ子は、ある意味幸せである。長野オリンピックで高速道路や新幹線が通るまで、上田は言わば陸の孤島であった。周りを山で囲われ、どこへ行くにも峠を越えなければならぬ。しかし、その半閉鎖的な都市は七十年代から八十年代にかけて、真田というヒーロー像によって常に誇りを持つことができたのである。真田十勇士はあくまでも架空の存在である。しかしそのスター性の高さやキャラクターの使いやすさから、今でも多くの舞台が演じられ、新しく映画も封切られる。田舎の小さな大名でありながらも、真田幸村や十勇士の逸話はプロバガンダのように私の心に刷り込まれているのである。

NEWS & TOPICS 草薙の御剣の御神前で刀剣とその技術を奉納



公開で行われた奉納鍛錬(横座は石田刀匠)

七月九日から十一日にかけて、熱田神宮において刀剣とその製作技術の奉納が行われた。毎年、七夕に近い日を選び行われてきた奉納は、今年で十九回を数える恒例行事である。熱田神宮刀剣並びに鍛錬・研磨・白鞘・ハバキ技術奉納奉賛会(以下、熱田神宮刀剣奉納奉賛会)は、高山武士会長の主導のもと、作り上げた刀剣とその技術を奉納することによって、日本刀という日本の文化を後世に伝承するという趣意で奉納を続けてきた。熱田神宮の本殿前、つまり草薙の御剣の御神前で行われるこの奉納は、昨今の需要に合わせた、いわゆるデモンストレーション的な公開鍛錬ではなく、刀と真摯に向き合い奉納するという神事の一つなのである。

奉仕者である刀匠たちは、熱田神宮の境内に参籠し、心身を清める。今年の奉納刀匠に選ばれた石田四朗國壽刀匠(群馬県)は、万全の準備を整え、この日に挑んだ。奉納刀匠を支える奉仕者として、火水の激しさに歓声が沸き上がる。鋼の塊は刀匠たちの振り下ろす鉄鎚で徐々に延ばされていき、造り込みまでの工程を終えて、初日は無事に終了した。二日目、素延べ、火造りと工程は順調に進む。午後からは神事の一環として、芳名録にご署名いただいた上で、希望する一般の方々も奉仕者となり、余鉄をもって向鎚に参加ができる。毎年来ているという方もいる。鎚打ちをした後は、皆それぞれが清々しい表情をされる。今年はその副会長で、元プロレスラーの前田日明氏も向鎚に参加された。奉納向鎚の音が響く中、石田刀匠が少し離れた場所です置きを始める。細かい作業だが、各刀工による差が目に見えてわかるため、興味深い。日没を待って、焼入れが行われた。厳粛な空気の漂う中、石田刀匠の動きを見守る。今回は火床を使わず、田楽で行う。闇に際立つのは、パチパチと弾ける炭と、うちわの音だけだ。刀身を赤めてから数分、石田刀匠が動いた。シューという音とともに、蒸気が上がる。七、八百度という高温から急速冷却される。砥石を当て、焼きを確かめる。会長から講評があり、成功の結果に拍手喝采が上がると、無事に二日目の工程も終了した。最終日の十一日、鍛冶押し、茎仕立ての後、いよいよ銘切りである。日ごろから、特に新刀や新刀刀であれば銘ぶり、鑪のかけ方が気になるわれわれだが、石田刀匠は迷いのない整運びで銘を切る。すべての工程は終わった。潔斎し、奉仕者全員が麻淨衣に着替え、御垣内参拝を済ませ、神楽殿へ向かう。社殿の中では巫女が神楽を踊り、神職が雅楽を演奏し、祝詞を上げる。そして、三日間に渡った奉納は無事に終わりを迎えた。普段は一振に何週間もかけて作り上げるというのに、この神事ではわずか三日間で銘切りまでしてしまふ。八月には、引き続き研磨・白鞘・ハバキなどの技術奉納を行い、十一月にすべてを仕上げ奉納となる。日本刀が出来上がるまでの工程を一貫して見学でき、一般の見学の方もまた奉仕者として神事に参加できるという場は稀有である。このような活動を通して、日本刀に対する理解が増え、伝統が守られることを切に願う。

江州屋刀剣店 小暮 昇一 滋賀県愛知郡愛荘町香掛80-1

■なお、当会の活動は、この奉納の趣旨にご理解をいただき、刀剣文化の普及啓蒙活動を支援いただく一般の会員と企業会員によって支えられています。詳しくお知らせになりたい方は、左記までご連絡をお願いいたします。(熱田神宮刀剣並びに技術奉納奉賛会事務局・大平将広 ☎03-3381-3071)



献納奉告に臨む奉仕者たち

刀 剣 界

ブック・レビュー BOOK REVIEW

面白い刀剣小説の登場を待つ

歴史時代小説名作アンソロジー『刀剣』

末國善口編集 中公文庫 定価七九九円(税込)

またしても刀剣にまつわるアンソロジー(作品選集)である。隆慶一郎「氷柱折り」は、源清麿の架空の弟子・鬼麿の話である。清麿が長州萩に行く途中、金に困って甲伏せの粗製を五口残してしまっていたのでそれを探し出し、すべて折ってこれた清麿の最後の言葉も聞いた鬼麿が、旅のさなか、その刀剣を何とか見つける。しかし、それらは皆「山浦環源正行」と銘のある、表面的には名刀ばかりだ。それらを贗作だと決めつけ、折ってしまおうというのだから、よく考えると難しい課題を師匠は死に際弟子に与えたことになる。実際には、甲伏せと清麿の鍛刀法である四方詰めとこれほどの差があるかわからないし、鬼麿の剣法が据え物切りの型で生きている人間を惨殺できるまでに修業を重ねていて、多数の敵と戦うシーンもいささかやりすぎかと思ってしまう。これも面白い小説である。

小生は、この「氷柱折り」を含んだ『鬼麿斬人剣』を四半世紀も前、刀のことなど何も知らずに、古美術・刀剣を扱う杉江美術店に雇ってもらったときに読んでいたのだが、もう一度探し出して読むと、当時とはまた違った面白さ、興味が湧いてきた。『鬼麿斬人剣』はお勧めです。

山本兼一「心中むらぐも村正」は、徳川家に徹底的に嫌われる村正の話である。まずは天文四年、家康の祖父清康が、二尺七寸の村正の太刀で家臣に斬り殺された。



日本人の魂がここにある
八人の名手と八種の名刀が織りなす傑作小説集!

その十年後、父広忠が、酒に酔った家臣にいさなり腰を突かれた。またしても村正であった。駿河の今川家の人質となった家康は、小刀で怪我をした。さしたる傷ではなかったが、痛みが激しく、いつまでも癒えなかった。それもまた村正であった。またある。天正七年、家康の長男の信康が、織田信長から切腹を命じられた。甲斐の武田と内通した嫌疑である。無実だったが、信長の怒りは激しく、家康は泣く泣く受け入れた。その介錯に使われた刀剣も村正であった。それら以来、徳川家に祟る刀剣として、村正は嫌われてしまう。そんな刀剣を所持してしまっただけで御家人の物語である。

東郷隆「竹俣」は、大坂城落城で方向不明になってしまった「竹俣兼光」のことを書いているのだが、それが上杉謙信の伝記とリンクしている面白。林不忘「寛永相合傘」は、入札鑑定における行き違いが果たし合いになってしまつという話である。好村兼一「青江の太刀」は、無銘の古刀の価値について面白く書いている。

新宮正春「秘剣!三十八人斬り」は、室町幕府十三代将軍・足利義輝が、二条城において松永久秀に襲われ、暗殺されるのだが、そのとき所持していた名刀を畳に突き刺し、敵の血と脂で刀が切れなくなるまで刀を取り替えて戦ったという話。ほかにも柴田錬三郎「虎徹」や宮部みゆき「騒々刀」(国広)とあるのだが、これらは肝心の刀の話がいい加減なので、ここでは割愛する。そろそろ現役で面白い刀剣小説を書ける作家が出てこないかと思う。そういう意味では、「青江の太刀」を書いた好村兼一に期待している。(持田良宏)

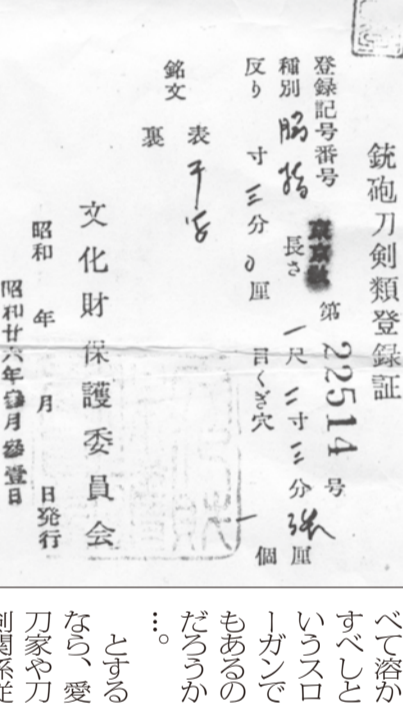
「登録証問題」を考える ④

事例⑦

「お手元の登録証は無効です。この事実を知った時点から不法所持になりますから、早急に地元警察に届け出してください。ようお勧めします。」
名義変更に伴い、こんな手紙を教育庁文化財保護係からもらった。どんな気分になるだろうか。私たちが刀剣関係業者であってもかなりドロクな気分になる。それが一般の人々、善意の名義変更届け出者であったとしたら、コカイやマリファナを持っているも同様な罪を今自分は犯している、さあどうしようか、警察に持っていかうとどんな目に遭わされるのだろう、ガクガクブルブル…、こうなることはほぼ間違いないだろう。

「お手元の登録証は二尺二寸三分強の脇指ですが、登録原票では一尺二寸二分五厘の脇指です。銘文も登録原票では八文字あります。結論から言いますと改ざんした登録証であるということです。」
同一書類にこうも書いてあり、登録証本文を見ることがなく改ざんと断言している。ここで役所型の線引きのようなものが垣間見える。つまり二方以上のずれ違いは改ざんと断じ、この手紙を送るべし、という内規が存在するのではないだろうか。

私は問い合せ先とされる銃砲刀剣類担当のS氏に電話をかけた。氏が口を開くより早く「登録原票の八文字って『平安城住石道助利』でしょ?」と聞くと、「そうですね。それなら訂正を受けることができます」との返事。
某の銘文を素直に読んだだけで解決に向かったが、お手元の登録証はその中の二文字「平安」だけしか書かれておらず、筆記中に長時間の間中座があったと推理できる。訂正当日、登録審査員の方が昭和二十六年当時の筆記者の名前を覚えてくれたが、刀剣で博士号を持つ誰かが知っているような方でも職務中に気を散らしてしまうのだ。



ドロクな文章に話を戻すが、この文章の背後の〇〇を□□する目的意識というものを読み取ろうとすると、刀剣登録をつかさどる「教育支援」「文化財保護」といった美しいセクション名とは大きく矛盾する、民間に刀剣があること一部の警察官が凶器としか見ないのと同様の認識が最初に読める。そして、イージーミスから悪意の改ざんまで、登録証に問題のある刀剣はすべて溶かすべしというスロークリガンでもあるのだから、登録審査に持っていく、現物確認してもらう羽目になった。

私の住む所の登録審査は二、三カ月に一回しかなく、再発行に四カ月もかかってしまった。教育委員会のミスで、だれが見てもわか

刀職紹介 第22回

〈研師〉小宮光敏さん



小宮光敏さんは、昭和五十九年福岡県の刀鍛冶一家に生まれる。高校卒業後、藤代興里師に弟子入りし、十年間修業し、二十八歳で地元の福岡県大牟田市にて独立されました。

本人曰く、「日本刀を後世に伝えていくために、刀研師には重要な役割があると思います。まず御刀を研ぐ際にできるだけ減らさないように注意を払い、美しく魅力的に丁寧に仕上げること」を心掛けています。お客さまに御刀を大切にしたいといただくために適切な管理保存方法も伝えているそうです。

公益財団法人日本美術刀剣保存協会が主催する研磨・外装技術発表会で優秀賞や努力賞を受賞するなど、技も確かで、将来有望な若手です。

なお、代金については、状態や長さによって変わってくるので、気軽に相談してみたいです。
連絡先 093-709006 福岡県大牟田市大字倉永一〇五一
0944-584566

そのようなことは、もう少しスムーズに手続きが進むようにしてもらわないと困る。この時間のロスは大きく、善意で登録を直す場合にはもう少しどうにかならないか、教育委員会にお願いしたい。

〈鞘師〉新堀篤史さん
新堀篤史さんは昭和五十六年、新堀美術刀剣の新堀孝道氏の次男として神奈川県横浜市に生まれる。家族には研師でもある父や、刀剣商の長男徹氏・三男賢将氏がおり、自然と刀の世界へと歩まれます。当初から鞘師を目指すも、何から手を付けてよいのかわからず、現在の公益財団法人日本美術刀剣保存協会が開催している技術研修会に参加し、白鞘の工程などを学びました。



その後、講師で来ていた無鑑査の前田幸作氏と出会います。前田氏は鞘師でただ一人「伝統文化ボラ賞」を受賞するなど、著名な方です。新堀氏の熱意が伝わり、前田氏から秋山登氏を紹介していただき、秋山氏の元に住み込みで白鞘・拵下地などの基礎を教習願ったそうです。

その後、兵庫県姫路市の前田氏の元に移って約七年間修業し、腕を磨きました。

その後、新堀美術刀剣の店舗近くに工房を設けて独立。日刀保主催の刀研磨・外装技術発表会にて優秀賞や努力賞を受賞し、刀剣商や内外のコレクターから仕事の依頼を受けるなど、その腕前に信頼が集まっています。

なお、代金については相談してみたいです。
連絡先 024-10822 神奈川県横浜市旭区さが丘一
0204-5342189

登録証問題研究会

イベント・レポート

永青文庫「歌仙兼定登場」

肥後細川家の秘藏品に武家の精神と匠の造形を見る

七月八日、東京・目白の永青文庫で夏季展示「歌仙兼定登場」の特別内覧会が開催されました。



永青文庫は目白台の閑静な住宅街の一角にあり、ここはかつて肥後熊本藩細川家五十四万石の屋敷でした。十六代護立公(日刀保初代會長)が昭和二十五年に、細川家に伝来する貴重な文化財の散逸を防ぐ目的で設立されました。

那須与一伝承館「刀剣くろがねの美」

古代から現代まで刀剣の歩みを紹介

七月二十七日、小雨降る中、那須与一伝承館(栃木県大田原市南金丸一五八四一九)を訪ねました。

七月二十七日、小雨降る中、那須与一伝承館(栃木県大田原市南金丸一五八四一九)を訪ねました。

この地は中世から近世にかけて、断続的に那須氏の本拠地であったため、那須氏ゆかりの史跡が今も数多く残っています。



那須与一ゆかりの品や資料を展示

りの武器・武具、熊本を代表する多彩な刀装具の工芸など、細川家が守り伝えてきた貴重な作品群の中に、武家の精神と匠の造形を見ることが出来ます。

「歌仙兼定」は、昨年から若い女性を中心に刀剣ブームを巻き起こしている人気オンラインゲーム「刀剣乱舞ONLINE」にも登場する刀として話題です。

永青文庫のある文京区と「刀剣乱舞ONLINE」のコラボレーション企画も実施され、旧細川家下屋敷跡の庭園である新江戸川公園では「歌仙兼定」のパネルと展示記念イラストも展示されます。

永青文庫で、風流な一時を過ごされてはいかがでしょうか。

「歌仙兼定登場」は七月九日(土)十月二日(日)開催。永青文庫二階120015 東京都文京区目白台一丁目一〇三三九四一〇八五〇月曜休館(ただし九月十九日は開館し、翌日休館)

刀剣博物館「花鳥絢爛刀装 石黒派の世界」

名工たちの鑿技の真価と全貌を堪能

刀剣博物館の「石黒派の世界」展に行ってきました。

石黒派の誰が出ているのだろうかと思っ作品を拝見したら、政常、二代政常(盛常)、是常、政明、政美、是美の六人の金工と、政美の次男であり、是美の弟である絵師岡本秋暉でした。



絵師岡本秋暉とは兄弟である。政美も作品が多く、何が一番かは決められるわけもないのだが、小生にとっては、やはり花鳥揃金具だろう。雉子・金鶏・桜・牡丹という、まさに花鳥の雄を揃えて一作にしたものである。

政美にはほかに、松上鷹図大小拵、松樹尾長鶏図大小拵・大小縁頭、牡丹孔雀図大小拵といった、武用を離れ、本當に拵に付けたのだろうかという疑問が湧いてくる刀装具が多いのは事実である。そんな中、薩摩藩の金工としての作品である、黒石目地塗鞆薩摩打刀拵は見事でした。特有の折金、立鼓を取らない柄、小型の鐔で石黒政美一作金ですからね。

那須与一伝承館では七月二日、九月十一日の会期で「刀剣くろがねの美」が開かれています。会場には、古代から現代に至る三十八点がすっきりと展示されています。

まずは第一章、石黒派の祖である初代政常。軍鶏図大小鐔、四季波濤図揃金具、竹虎図縁頭・目貫と名品が続くが、何と云っても親子雉子図三所物がすごい。まさに石黒の石黒たる真価が映える。

去る五月十六日、新宿・玄海にて刀装具研究者・園平治氏の傘寿の祝賀会が執り行われた。

園平治氏を囲んで傘寿のお祝い

園氏は昭和十一年四月生まれ。昭和四十年ごろから刀剣を柴田光男氏に学び、五十年ごろからは刀装具を笹野大行氏に師事して研究した。刀剣と刀装具の両方に精通する数少ない愛好家である。

大阪南美術会館「なんば刀剣祭」

刀剣女子も押し寄せた「なんば刀剣祭」

七月の二、三日、大阪の南美術会館において「なんば刀剣祭」が開催されました。

大阪の馴染みの数寄者は長々と雑談し、欲しいものを買うときは値切りがキツク、往生するのはいつものことなのですが、去年から女性の来場者が目立ちます。



南美術館で開かれた「なんば刀剣祭」

大阪の馴染みの数寄者は長々と雑談し、欲しいものを買うときは値切りがキツク、往生するのはいつものことなのですが、去年から女性の来場者が目立ちます。「刀剣乱舞」というゲームのヒットから生まれた「刀剣女子」と呼ばれる女性たちの見る目は真面目で、店主と真剣に話をしているのが目につきました。

園氏は鑑定の秘訣を伺うと、「とにかくモノをよく見る。そして自分の手元に置いて比較研究すること」と答えていただけだ。

日本酒と水炊きの出汁の相性は抜群で、お酒も十分に回ったころ、新井康男氏の本締めで、盛況のうちに幕を閉じた。

アオバ企画(株) 高橋 一

TEL 130-0012 墨田区大平四一九二二〇八

催事情報

大阪歴史博物館

〒540-0008 大阪市中央区大手前4-1-32 ☎06-6946-5728
http://www.mus-his.city.osaka.jp/

館長と学ぼう 新しい大阪の歴史

当館学芸員が研究する大阪に関する歴史や美術を、米原永遠男館長とともに学ぶ講座です。まず講師が講演を行い、その後、館長と講師による質疑応答を行います。

9月23日(金)「庶民が楽しんだ近代大阪のさまざまな芝居」

講師/船越幹央

明治末から大正時代にかけて、現在のくミナミをはじめとする大阪の興行界は激しく変化していました。「庶民の日常」を捉える方法として、芝居・寄席などの芸能とそれが興行される場に注目し、新聞・雑誌を読み解きます。

9月30日(金)「大阪は博物館先進地?! 一 大阪の博物館と博物館」

講師/加藤俊吾

大阪では明治8年という、全国的にも早い時期に地方博物館が設立されました。こうした背景には、江戸時代から底流していた博物学の動きがあったと思われます。物産会から博覧会、そして博物館へという流れを、大阪を舞台に見ていきます。

10月7日(金)「生人形とせともの祭り」

講師/澤井浩一

生人形はまるで生きているかのように作られた人形です。大阪では江戸時代末ごろから見世物興行や祭りに登場し、人々の注目を集める存在でした。ここでは大阪における生人形興行や祭りの実態を紹介します。

時間: 午後2時~3時30分

参加費: 各回200円

定員: 各回250名(先着順)

広島県立歴史民俗資料館

〒729-6216 広島県三次市小田幸町122 ☎0824-66-2881
http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/rekimin/

麗しき日本刀 一 中・四国の現代刀とその世界一

日本刀は、その機能美によって世界から評価され、現代の中・四国地域でも多くの刀匠が伝統を受け継ぎ、作刀を続けています。

この特別企画展では、日本刀の歴史を振り返り、美しい現代刀の鑑賞

を通して、作刀技術の素晴らしさを紹介します。

会期: 9月16日(金)~11月6日(日)

月曜休館(9月19日、10月10日は開館)

古河歴史博物館

〒306-0033 古河市中央町3丁目10-56 ☎0280-22-5211
http://www.city.ibaraki-koga.lg.jp/0000005515.html

日本刀名品展 一 鎌倉時代から現代まで

〈主な展示品〉 二字国俊(重要美術品)・来国光・長船義光(高橋泥舟遺愛)・長義・堀川国広・越前康継初代・水心子正秀・泰龍齋宗寛(古河藩工)・固山宗次(葵紋崩烈公作)・

山浦真雄・大野義光ほか

会期: 10月22日(土)~11月27日(日)

休館10月27日・28日、11月4日・24日・25日

日本橋高島屋

〒103-0027 東京都中央区日本橋2-4-1 ☎03-3246-4310
https://www.takashimaya.co.jp/tokyo/

夢は香る 一刀工宮入小左衛門行平展

今秋、日本橋高島屋6階美術画廊において、3年ぶりとなる宮入小左衛門行平刀匠の個展が開催される。追加注文があるほど好調だった前回に引き続き、今回も最新作の刀・脇指・短刀に加え、小刀や小物類を含めた30点以上が、展示・同時販売される。

伝統的な遷宮に奉仕する一方、近年話題のアニメーションとのコラボなど、時空を越えて幅広く活躍する同工の面目躍如たる展覧。11月5日(土)午後3時からギャラリートークが催され、作品を前に作り手の思いが伝えられる。

会期: 11月2日(水)~8日(火) 10時30分~19時30分(最終日は16時閉場)



NEWS & TOPICS

「広井雄一先生傘寿を祝う会」開く

七月八日午後六時から、東京・信濃町の明治記念館にて「広井雄一先生傘寿を祝う会」が開かれ、寒山先生(下生)のメンバーが中心となり、神田刀剣会の皆さんを交えて開いたものです。

最初に、開会の中で柴田和夫さんが、広井先生が長年にわたって刀剣界に尽力された功績をたたえられました。

次に、遠路山口県から駆けつけられた国広浩典さんより記念品が贈られました。健康の源は散歩からということ、ウォーキングシューズが選ばれました。さらに、久保恭子さんから花束が贈呈されました。

ここで、酔う前に写真を撮っておこうということで、記念撮影がありました。

その後、発起人である飯田一雄・河端照孝・柴田和夫・福土繁雄の各氏がそろって壇上に入り、河端さんの発声で乾杯が行われま

した。そして、おいしいお酒と料理を頂きながら、久しぶりにお会いする面々あって、同窓会のようにならなるといふことになりました。

飯田さんからの祝いの言葉の中に、刀剣会の初期の懐かしい思い出話の披露もありました。

最後に、広井先生からお礼のご挨拶がありました。司会進行は林泉さんをお願いしましたが、終始和やかな祝賀会としてくださったことに厚くお礼申し上げます。

ところで、広井先生は文化庁に奉職されていた関係もあって、全国の神社に太いパイプがありました。双山会の年度の研修旅行では、先生のご尽力で神社所蔵の名刀を拝見する機会をしばしば頂きました。

久能山東照宮で、国宝中の国宝と言われる古備前真恒を手にとって拝見したときの感激は、今でも忘れることができません。二荒山神

社では国宝の来国俊の小太刀、鹽竈神社では重文の雲生の太刀など、普段では決して鑑賞することのできない宝物を間近で体験できました。誠にありがとうございました。

広井先生は昭和十一年、名人鞘師と言われた広井信一氏の長男としてお生まれになり、國學院大学文学部史学科に入学、刀剣学を本間薫山・佐藤藤山の両先生に学びました。

文化庁文化財保護部美術工芸課にて主任文化財調査官として活躍、その後は東京国立文化財研究所情報資料部長を務められ、定年退職されました。

退官後は、日本刀装具美術館館長に就かれました。その間、國學院大学・清泉女子大学・大正大学で講師を務められました。

今後とも健康に留意され、刀剣界においてますます活躍されることを切に願います。(賀賀吉也)

学会発表体験記

江川英龍と 刀工大慶直胤の交流

七月二十三日、東京工業大学の岡山キャンパスで「鉄の技術と歴史」研究フォーラム第二十一回公開研究発表会が開催されました。こうして学会に参加することは過去ありましたが、今回は事情が異なりまして、私自身が発表者だったのです。



講演の後に質問を受ける筆者

直胤の復古刀理論の実像、そして英龍の鉄製大砲製作構想について」と題し、二つのテーマで話しました。一つ目は、直胤が作刀の方法について述べた江川英龍宛の書状です。作刀の手法は、芯になる鉄を刃鉄や皮鉄で包む、と本にはあります。直胤が書状で示した方法は堅い鉄と柔らかい鉄を同量用意して合わせ、折り返し鍛錬を十三回、伸ばして焼刀土を付けて焼き入れするというもので、直胤は「五々の法」と命名しています。

似た方法が「丸鍛え法」として、依國一先生の著書で紹介されていました。直胤書状は、復古刀理論の実践者の肉声を伝えて非常に貴重です。

もう一つのテーマは、英龍の鉄製大砲製造に直胤が深く関与した事実を伝える書状についてです。天保十二年(一八四一)の三月十七日、洋

式砲術家の高島秋帆と直胤が江戸近郊の宿舎で会見。秋帆から貴重な情報を得て大砲製造事業の成功の可能性が高いことを確信した直胤は「大いに工夫をなさってください。そうすれば南蛮砲の製造は思うがままです。それが日本の御為になります」と記し、英龍を励ましています。英龍の事業構想は日本の未来を左右する重大事項である、との認識が直胤にあったことがわかります。

「なぜこういう素敵な史料に巡り合えるのでしょうか」。高名な研師の先生のお尋ねです。図書館で見いだした史料を原文と照合できないまま十年経過し、諦めかけたときに道が開けましたが、今思えば十年は空白ではなかった。

「突き詰めれば運が良かったことでしょうか」とお答えし、ご静聴に感謝の意を述べ、私の無我夢中の三分は終わりました。(小島つとむ)

日本刀の美術館を富山市に開館 森政雄さん(85)

国内有数の刀剣コレクションを展示する森記念秋水美術館(富山市)を6月に開館、館長を務める。国の重要文化財「虎徹」をはじめ、集めた刀は約200本。友人に「1人で楽しんでいないで多くの人に見てもらったら」と勧められ、名刀を意味する「秋水」を美術館の名に冠した。

薬学を学び、医薬品会社を設立。経営が軌道に乗った70年ごろから収集に乗り出した。刀身に浮かぶ、薄い鉄の層

でできた繊細な模様。「鉄の風情」に夢中になった。中でも、出合った瞬間が忘れられないのは古備前の刀匠「友成」の一振りだ。「平安時代の素朴な鉄の力を感じた。技巧的な作りではないが、シルエットがとにかく優雅で」。その日のうちに購入を決めた。

本業の医薬と「二刀流」での研究。「どんな炭素の配合で、どの産地の鉄なのか。縦と横、それぞれ何回打った模様なのか。刀の鑑定に理系の分析力が役立ったんです」



天下の名刀はもう探し尽くしたのでは。そう聞くと「良い刀は今の若い人の作品でも買います。誰かが買って批評してあげないと現代刀工は育たないから」。(岡本奈生加) 2016.8.12